

2020（令和 2）年度 基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式 1

		よう適切に選択、組み合わせができるように配置した。 （8）講義・実験・実習・演習科目のいずれにおいても、課題を発見し、その解決に取り組む手法を理解するために、アクティブラーニングあるいはPBL(Project Based Learning)の手法を積極的に取り入れ、現場との密接な連携を可能にするよう配慮した。 さらに卒業後の進路を見据えた履修モデルを学生ポータル上の「履修の手引き」で提供している。			
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 各学年に配置している授業科目は、順次性のある体系的な教育課程を構築している。	【長所】 教育科目の選択肢が豊富で、学生ニーズの多様化に対応できる。	【長所】 学生にシラバスや授業時間に成績評価、単位認定の方法を周知することで適切で公正な評価を行っている。	【長所】 本学科では、1年次からいずれかの研究室へ所属することを奨励している。このような学生に対しては学習成果を早い時期から把握することができる。	【長所】 学科会議の下部組織として、教育課程に関する委員会を設けることで、効率的な挙行く課程の改善を行うことができる。
	【特色】 学際的かつ実践的な学問である国際農業開発学を学ぶために、また地球規模的視野を備える資質を養うことを目的として、本学科のカリキュラムは組み立てられている。そのため、自然科学と社会科学の両領域からなる科目を配置し、海外での業務と生活を円滑に遂行するのに必要な語学の習得にも配慮している。さらに、国内外の農業実習・研修を積極的に取り入れ、経験を積むことを奨励している点も、本学科の大きな特色となっている。	【特色】 多様なカリキュラムと教育・研究分野を配置することで、多様な学習の場を提供している。	【特色】 特になし。	【特色】 本学科のコース選択は、3年次以降のクラス担任と卒業論文作成時の研究室・指導教員選択の2つの目的をもつ。したがって他学科、他課程などへの研究室に所属し、卒業論文の作成に当たる場合も、前述のクラス担任の関係で全員本学科のいずれかのコース（研究室）を選択しなければならない。	【特色】 学科内に時間割および実習に関する担当者を複数名任命して教育課程について適宜検討するとともに、教育に関わる諸々の事案について幅広く議論している。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 自然科学、社会科学の両領域の科目を系統的に学習することが求められると同時に、それらの総合化が図られなければならない。	【問題点】 本学科の教育科目はアクティブラーニングを基盤とした編成になっているが、受動的な学生に対する配慮も必要である。	【問題点】 成績評価は個々の授業担当者に委ねられている為、評価にバラつきが生じる。	【問題点】 学生の能力を正確に判断するのに時間がかかる。	【問題点】 教育課程について、遠隔授業への対応など、既存の体制だけで対応できない事項もある。
	【課題】 学生の学習必要性に対応した体系的履修モデルの提示	【課題】 学生の学習の活性化に向けた教育科目・内容の見直し	【課題】 成績評価の標準化	【課題】 「マイルストーン」や「ポートフォリオ」を用いた、学習成果の把握を検討する。	【課題】 教育課程に関する新たな学内委員会設置を検討する。

根拠資料名	シラバス 学科案内（別添資料⑥）	シラバス 学科案内（別添資料⑥）	シラバス 学科案内（別添資料⑥） ひろば（別添資料①）		シラバス 学科案内（別添資料⑥）
-------	---------------------	---------------------	-----------------------------------	--	---------------------

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	国際農業開発学科では、環境保全に配慮した農業・農村開発を推進するために必要な教育・研究を行うとともに、グローバルな視点で農業開発を実践する人材を養成している。そのため、本学科では、次のような学生を求めている。 （１）日本の高等学校卒業程度の英語、理科系科目、国語、社会系科目の基礎学力と必要な知識を修得している。（知識・技能） （２）開発途上国の農業・農村開発に関心があり、国際協力のために積極的に活動する意欲や国際社会に貢献する希望を有している。（関心・意欲・態度） （３）異文化理解のための柔軟な思考ができ、多様な人々と協働するためのコミュニケーション力を有している。（主体性・思考・判断・表現） 以上の受け入れ方針に基づき、１）一般選抜（A 日程、B 日程）、大学入学共通テスト利用入試、２）キャリアデザイン総合型選抜、３）高校で学んだ実践スキル総合型選抜、４）東京農大ファミリー総合型選抜、５）一般学校推薦型選抜、６）指定校推薦型選抜、７）技術練習生総合型選抜、８）社会人選抜、９）外国人・帰国子女選抜、１０）外国人留学生指定日本語学校総合型選抜、１１）運動選手学校推薦型選抜、１２）併設高校推薦型選抜、１３）転入学・編入学・学士編入学選抜の公正な実施により入学者を選抜している。それぞれの入試制度の定員枠は毎年見直しを行っている。	学生募集および入学者選抜についての定期的検証は、各種入学試験前後および日常的な学科会議の中で議論し、改善が必要な事項が発生した場合にはその都度議論し解決している。本学科における各入試制度別の入学者の入学後の学習状況を検証する中から、推薦型・総合型選抜における小論文題目、面接における質問項目及びそれらの評価基準の見直しあるいは入試制度ごとの定員枠の見直しを随時実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 多様な入試制度の活用により多様な学生を集めることができる。	【長所】 毎年、入学者選抜を検証することで、高校生の志願状況や入試動向に対応した学生確保が可能である。
	【特色】 多様な学生を集める為に、さまざまな入試制度を活用し、それぞれの入試制度には学科の特徴に合わせた定員枠を設けている。	【特色】 毎年、入学者選抜においては、検証を行い各入試制度の定員増減などの改善に努めている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 多様な入試制度による入学者は、学習能力が異なる為、入学後の学生の学習成果の差が大きくなる。	【問題点】 入試制度によっては、定員に満たない場合がある。

2020（令和 2）年度 基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式 1

	【課題】 海外からの留学生を積極的に受け入れる入試制度の改革。	【課題】 国際農業開発学科独自の入試制度の検討。
根拠資料名	大学案内	大学案内

	【課題】 「教員組織の編制方針」に即した資質の向上。	【課題】 本学科では近い将来に、順次定年退職を迎える教員がいることから、計画的な教員組織の編制を実施する。	【課題】 引き続き「教員組織の編制方針」に即した教員の募集、採用、昇任をおこなう。	【課題】 引き続き「教員の資質の向上」に努める。	【課題】 学科会議、検討委員会を開催し教員組織の適切性を点検・評価する。
根拠資料名		教員年齢構成（別添資料②）		教員の研究活動の強化（別添資料③）	職務分担（別添資料④）

	結んだ地域との地域再生・活性化プロジェクト活動等を行う実践的な科目を配当している。「総合化科目」には、4 年間の学修の集大成となる「卒業論文」を必修科目として配当している。				
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・学科専門科目の関連分野(経済学等)の学習成果の測定について検討する必要がある。	【課題】 ・カリキュラム改正への対応
根拠資料名	学生生活ハンドブック（資料 1）			ELCA 受験のしおり（資料 2）	1 年基礎ゼミアンケート結果（資料 3）

現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】	【特色】 ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・アドミッションポリシーの一部変更を検討したが、大学全体で足並みを揃えるということで保留になっている。	【課題】 ・なし
根拠資料名	食料環境経済学科ガイドブック（資料 4） 個別相談会実施計画（資料 5）	推薦入試等の選抜方法（資料 6）

2020年度 基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式 1

	ラム作成作業)。 C：シラバスに基づいた授業（点検項目に対する現状説明④）の根拠資料：大学が実施している学生授業アンケートの「授業はシラバスに基づいて行われましたか」。 D：新入生対応（点検項目に対する現状説明の⑤）の根拠資料：学科会議資料（4月）。 （PDF：資料1～資料6）	（PDF：資料7～資料8）	現状説明の④）の根拠資料：学科会議資料（卒業判定資料等）、「学科案内」。 （PDF：資料9～資料10）		
--	---	----------------------	---	--	--

2020年度 基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式 1

根拠資料名	A:「研究教育上の目的」「教育目標」「3つの方針」(点検項目に対する現状説明の①) の根拠資料: 大学ホームページの学科・課程紹介、「学科案内」、学科紹介リーフレット。 B: 教員の枠取り・採用 (点検項目に対する現状説明の②) の根拠資料: 学科会議資料、学科教授会資料。 (PDF: 資料 16～資料 17)	A: 教員組織編成、授業科目、教員配置 (点検項目に対する現状説明の①②③) の根拠資料: 大学ホームページの学科・課程紹介、「学科案内」 (PDF: 資料 16)	A: 教員の採用・昇任・専任化指導 (点検項目に対する現状説明の①②) の根拠資料: 学科会議資料、学科教授会資料 (PDF: 資料 17～資料 18)	なし	A: 教員組織の適切性にかかわる点検・評価 (点検項目に対する現状説明の②) の根拠資料: 卒業生アンケート自由記入意見への対応 (PDF: 資料 19)
-------	---	---	---	----	--

2020（令和 2）年度 基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式 1

	が鍵となる。 ・募集及び入室時期、条件など、研究室体制について引き続き検討が必要である。	・本学科の基幹科目である通い実習、ファームステイ、フィールドスタディ等、実習科目の多くが、COVID-19 対策のため従来通り実施できず、オンラインによる代替または次年度以降に先送りとなり、やり繰りの困難さに加えて、学生からも多少不満の声が聞かれた。未だ感染症の終息が見えず、次年度以降どのように押し掛かってくるか予測ができない。			
根拠資料名	資料番号 1 はじめのガイド、2、3 学科会議資料等、4 実習・演習予定表	資料番号 5 履修の手引き（世田谷キャンパス https://www.nodai.ac.jp/portal/tebiki/setagaya/ ）、2 学科会議資料、6 国際食農教育・学習論講義資料、4 実習・演習予定表	資料番号 2 学科会議資料、メーリングリスト	資料番号 7 国際食農科学総論シラバス	

2020（令和 2）年度 包括的な点検・評価報告書

様式 2

現状説明を踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】 一貫したカリキュラム体系が時間割編成上難しく、一方ではこのような幅広い領域を学び取る学生が何処まで理解し、実学に応用してくれるかが問題となる。	【問題点】 学生に対する教育効果を高めるには、履修科目に対して指導が必要となる。	【問題点】 現在の国内外の政府機関、研究教育機関、民間企業等で活動を行うに当たっては、各教員の教育資源に頼らざるを得ない。
	【課題】 学習の活性化に向けた教育内容の点検と改善。	【課題】 学習の活性化に向けた教育内容の点検と改善。	【課題】 大学外部の教育資源と連携・協働した活動の推進
根拠資料名	シラバス 学科案内（別添資料⑥）	シラバス 学科案内（別添資料⑥） ひろば（別添資料①）	シラバス 学科案内（別添資料⑥） ひろば（別添資料①）

	調査を実施した。 学生研究室活動の研究成果は、収穫祭が中止になったので例年行ってきた文化学術展の食料環境経済学科研究室会の展示ができず、代わりに 11 月 13 日に「リモート文化学術展」としてオンラインで研究発表会を実施した。研究成果の概略は『大地に学ぶ』として刊行した。 年間の研究室活動については、各研究室より活動報告書の提出を求めて確認した。 このように、各研究室で活動計画と運営方針を策定・確認し、学生の研究への興味の上と教育への満足度の上上に留意しつつ活動を実施し、収穫祭などを通じて研究成果の社会への還元を行った。 上記の教育・研究活動を推進する手段として『大地に学ぶ』を発行して、学生の意見掲載、優秀卒論の発表を行った。具体的には、平成 30 年度の『大地に学ぶ』を各種研修や卒業研究に取り組む学生に配布し、動機づけを行った。その実施成果をもとに令和元年度の『大地に学ぶ』を編集・発行し、優秀卒論の発表、フィールド研修、フィールドリサーチ、山村再生プロジェクトの実施状況とともに、論文要旨および各研修活動に参加した学生のレポート・感想文を公表した。		
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・フィールドリサーチで国外コースの選択者が極端に少なく、アメリカコース・台湾コースが実施できなかった。	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・学生の研究室選択方法の変更に伴う効果的な体制の構築。	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	『大地に学ぶ』（2021 年 3 月発行）（資料 10 冊子体） 食料環境経済学科ガイドブック（資料 4） リモート文化学術展のご案内（資料 11）	『大地に学ぶ』（2021 年 3 月発行）（資料 10 冊子体） 『就職活動体験記』（2020 年 6 月発行）（資料 12） 令和 2 年度卒業論文発表大会プログラム（資料 13） 学科卒業式次第（資料 14） オンライン企業懇談会出席者一覧（資料 15）	

令和 2 年度 包括的な点検・評価報告書

様式 2

現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	2020 年度研究室・実習等活動報告（資料 16）	2020 年度研究室・実習等活動報告（資料 16） 『大地に学ぶ』（2021 年 3 月発行）（資料 10 冊子体）	

令和 2 年度 包括的な点検・評価報告書

様式 2

	度はすべて中止となった。 その他に、各研究室で国・自治体等の各種委員の担当 10 件、国・自治体・企業などでの講演会への講師派遣 4 件以上があった。	抱えている学生については、一年生から四年生までの演習(ゼミ)担当教員から学科長に報告をあげ、必要に応じて健康サポートセンターや関係教職員にも応援を求め、保護者への連絡を行い、学生のサポート体制を組んだ。	
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	2020 年度研究室・実習等活動報告（資料 16） 山村再生 PJ 参加学生数（資料 17）	教育懇談会前学期（資料 18） 教育懇談会後学期（資料 19）	

根拠資料名	現状説明の根拠資料 A：国際バイオビジネス学科案内 B：学科会議資料 (PDF：資料 20)	現状説明の根拠資料 大学の授業アンケート (PDF：資料 21)	現状説明の根拠資料 バイオビジネス・シリーズ (PDF：資料 22)
-------	---	--	--

2020（令和 2）年度 包括的な点検・評価報告書

様式 2

現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・ COVID-19 の影響を受け活動が大幅に縮小したこと	【問題点】 ・ 新学科として、依然広報に使用できる動画や写真が少ない。	【問題点】 ・ ①同様
	【課題】 ・ 次年度以降、どのような体制で進めるか不明確であること。また築きつつあった学科独自の方法論も再構築しなければならないこと	【課題】 ・ 投稿を増やすこと。フォロワーを増やすこと。	【課題】 ・ ①同様
根拠資料名	資料番号		